

12～15歳のお子様をお持ちの保護者の皆様へ

小児への新型コロナワクチン接種について
沼津医師会からのメッセージ

すぐに新型コロナワクチン接種をした方がよいですか？

接種するにあたり、本人、養育者がメリットとデメリットを十分に理解し、接種前後の細やかな対応をお願いします。



接種に悩んだらかかりつけ医に是非ご相談ください

2021年6月現在の日本小児科学会の見解です

1. 現在のところ小児の新型コロナウイルス感染症は、従来株だけでなく変異株において感染者の多くは無症状もしくは軽症であることがわかっています。しかし変異によって今後小児も重症化しやすくなった場合、ワクチンは有効かつ必要なものであることは間違いありません。
2. **「まずは子どもにかかわる業務従事者（学校、幼稚園、保育園、学童クラブ、放課後デイなど）や保護者へのワクチン接種が重要」**
感染源の多くは成人であることから（小児の感染者の70%は保護者からの感染！）周囲の大人がまず免疫を獲得することが重要です。
3. 若年者は本ワクチン接種後の疼痛、発熱、頭痛等の全身反応が成人より頻度が高く、接種時の緊張から来るこの年齢特有の接種直後に起こる反応も起こる可能性が高いことも考えなければなりません。
4. 国外では神経疾患、慢性呼吸器疾患、免疫不全などの基礎疾患を持つ小児が、新型コロナウイルスに感染すると重症化することが報告されています。基礎疾患のある小児はワクチン接種で重症化を防ぐことが期待されます。
5. 接種する判断も正解、接種しない判断も正解です。接種した人や接種しない人への根拠のない批判（スティグマ）はやめましょう。

